

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	山田 富美雄 (やまだ ふみお)	所属	大阪人間科学大学
研究集会等名称	まばたき研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 31名 (うち認定心理士 5名) 非会員 8名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>(1) 日本心理学会におけるワークショップの開催</p> <p>大会2日目に WS059「ビデオカメラで撮影した顔画像から瞬目行動を科学する」と題し、近年、顔認識機能や附属するツールの増加などビデオカメラの開発がめざましい中で、顔画像データから非侵襲的に容易な測定と詳細な分析ができる瞬目について、話題提供者1名と指定討論者1名を含み、指標として瞬目を利用する際の利便性と可能性や精度の高さについて、研究者が集って活発な議論がなされた。</p> <p>(2) 年1回の定例研究集会の実施</p> <p>日時：2013年3月23日(土)13:00～3月24日(日)13:00 場所：兵庫県民会館(幹事：宇津木成介、所属：神戸大学) 内容：一般発表およびシンポジウム</p> <p>研究集会は、開催2日間(1泊2日)の参加者数が30名でした。小講演は2演目あり、それぞれ「私のまばたき研究」と「自発性瞬目の機能的役割とは何か」と題して、一連の研究成果に基づく話題により、講演後には活発な議論が行われました。一般演題は7件で、測定法や分析法を中心として、虚偽検出、交通安全対策といった応用分野への活用を目指した発表など、多岐にわたっていました。</p> <p>なお、研究会に続く総会において、会計報告とまばたき研究会の今後の進め方についての話し合いが行われました。次回2013年度の定例研究集会は、例年通りの時期(平成26年3月末の2日間)に、関東にて開催すること(幹事：田中裕、川村女子学園大学)を決定しました。それに加え、日本心理学会にて、公募シンポジウムに応募するために準備を進める方向性について、参加者全体の賛同を得ました。</p>		